

Many data obtained by the electric resistivity method for prospecting survey of underground water, indicate the following facts: 1) electric resistivity of stratum varies by water quality, water-bearing quantity and the relation of distribution of the water containing space, 2) the so-called water-bearing stratum should be divided into workable and unworkable parts, 3) the seasonal changes of water level and the velocity of underground water suggest that the deeper water influences the shallower one. Then the physical measurement for sediments and rocks in close cooperation with the geological consideration may enable to solve the question as to the subsurface condition above the level of the underground water, the spring mechanism and the quality of water in sediment.

## 短 報

**森川六郎:** *Nagatoella* について *Nagatoella* は 1936 年, Thompson が長門産の *schellwienia ellipsoidalis* var. *orientes* Ozawa を Genotype として命名した新属であるが, その後, Dunbar と Skinner (1937) は, これを認めていないらしくて *Schwagerina* に属させている。

本属は長門以外には未だ発見されていない。筆者は現在, 關東山地東部の秩父古生層を調査中であるが, 埼玉縣秩父郡荒川村寺澤及び入間郡吾野村下久通の 2ヶ所で *Nagatoella* と思われるものを発見した。寺澤においては *Parafusulina*, *Doliolina*, *Staffella* と共産し, 下久通においては *Parafusulina* と共産する。これらは Thompson のいう特徴の外に *chomata* が非常によく発達しているので, *Schwagerina* とは完全に區別できる。したがって, *Nagatoella* を樹立する事に賛成する。即ち, 本属は *Triticites* より *Doliolina* や *Pseudodoliolina* に變化して行く途中の stage にあるものではないかと思われる。なお, 現在までの知識に於ては *Parafusulina* の多産する所のみより知られているが故に層位學上, 非常に注意すべき属と思われる。(埼玉大學地學教室)

### 藤本 治義: 栃木縣鹽谷郡栗山村及び兵庫縣川邊郡多田村産紡錘蟲

#### 1) 栃木縣鹽谷郡栗山村花輪近傍産紡錘蟲

この化石は岡萬次郎が採集して, 著者に研究を託したものである。栃木縣と福島縣との境をなす帝釋山脈の地域はこれまで研究から取残された地域であつて, 我々の知識は 20 萬分の 1 地質圖の報告以上に出ることが少ない。奈佐忠行の 20 萬分の 1 の地質圖日光圖幅によると, 帝釋山脈は主に古生層(小佛古生層とあり)とこれを貫く花崗岩からなつていて, これは更に新期の諸種の火成岩及び第三紀層によつて被れている。この度の研究資料はこの帝釋山脈の古生層から産したものであつて, 産地は鬼怒川の上流に於ける 1 支流湯西川の上流に位置している。この湯西川の上流には岡萬次郎の話によると栗山村花輪部落北及び南に石灰岩が分布していて, その岩石は黒色を呈している。化石はこの石灰岩から産したものであつて, 扁壓をうけて變形していて保存不良であるが次の種類を識別した。

*Yabeina* sp., *Neoschwagerina* sp., *Verbeekina* sp., *Schwagerina* sp.

これ等の化石の地質時代は二疊紀に屬することは明であつて, 恐らくはその上部に相當するものであろう。

#### 2) 兵庫縣川邊郡多田村産紡錘蟲

この化石は神戸大學教育學部春成兼俊が採集し, 研究を著者に託したものである。京都府から兵庫縣の東部にかけては廣く上部古生界が分布していて, その分布の南端は兵庫縣東南隅部から大阪府池田市附近に及んでいる。池田市の西に流れ出る猪名川の流域はそれで, 主にこの古生層から成つている。尙この地域の古生層と京都西山の古生層との間には, 石英閃綠岩の大きな底盤が進入していて兩者の連絡を斷つている。この地域の地層は主に砂岩・粘板岩から成つて, この外石灰岩・珪岩・輝綠凝灰岩を伴つている。石灰岩は 20 萬分の 1 地質圖によると, 川邊郡多田村多田神社附近と同古江の近傍に分布するようである。この地域の地層にはこれまで化石は未発見で, その正確な地質時代は不明であつた。この度研究し得た紡錘蟲はこの多田神社近傍(西方)の石灰岩から産したものであつて, 石灰岩は灰色を呈している。化石には次の種類を識別し得た。

*Schwagerina krotowi* (Schellwien), *Schwagerina* sp.

この化石の地質時代は二疊紀に屬し, 多分 Sakmarian に相當するものであろう。(東京文理大地質學教室)